

# 生活科において自己の気づきを表現し、他者の気づきと関連付け、新たな気づきを生む児童の育成

— ICTを活用して、気づきを表現し、互いの気づきを共有する活動の実践を通して —

特別研修員 生活 高津 亜弓 (小学校教諭)



## 目指す児童像

自己の気づきを表現し、他者の気づきと関連付け、新たな気づきを生む児童

### 手立て②の実践

#### 発問の例

##### 【比較】

- ・違う形のどんぐりを見付けたことはない？(形)
- ・これと同じ実はどこにあるの？(場所)
- ・夏の時はどんな色や形をしたかな？(季節)

##### 【関連】

- ・この実は、これからどうなるのかな？(自然の不思議さ)
- ・どんぐりを使って、他にどんなことができるかな？(活動の発展)
- ・休み時間にどんなことができそう？(生活とのつながり)

風で葉っぱが木から落ちていたから、木の葉をキャッチするゲームができそう。



大きくて、丸いどんぐりも見付けたよ。



気づきの質を高める

### 手立て②

記録した写真を手掛かりとして気づきを表現し、互いの気づきのよさを共有する活動の設定



◇記録した写真を手掛かりにして、気づきを比較、関連付けさせるための発問の工夫

### 手立て①の実践

### 手立て①

ICTを活用して、気づきを表現できるための視点の提示

- ◇単元やねらいに応じた視点の具体化
- ◇視点を基に、児童がタブレットを使って、気づきを記録



#### 【視点】



#### 【記録の様子】

この葉っぱ、いろいろな色をしていよ。不思議だね。



タブレットだと簡単にたくさん撮れるね。

本当だ！忘れないうちにすぐ撮っておこう。

### 児童の実態

- ・言葉や絵でうまく表現できない。
- ・活動に熱中して気づきを忘れてしまう。

### 教師の願い

- ・児童の気づきをたくさん表現させたい。
- ・児童の気づきを共有させたい。

### 【成果】

- 気づきを表現するための視点を示し、タブレットを活用することで、多様な気づきを簡単に表現することができた。
- 記録した写真を手掛かりとして、互いの気づきのよさを共有する活動を行い、発問を工夫したことで、自他の気づきを比べて、友達の気づきのよさを感じたり、季節の変化や今後の生活と関連付けたりするなど、新たな気づきを生むことにつなげることができた。

### 【課題】

- より一層気づきの質を高めるために、児童同士のやり取りを更に活性化できるような共有の仕方の工夫が必要である。
- 写真を撮るだけの記録や発表の際の投影だけでなく、タブレットで記録した写真にメモを書き込ませたり、その時の気づきを動画で記録させたりと、ICTの活用に関して、より発展できるとよい。